

第一次産業を元気に



新田 勝見 議員

【質問】 山積している市課題の中で大切なのは、産業が元気になること。その中でも第一次産業の振興が必要である。基幹作物の水稻において、米価が大幅下落し、大きな打撃があり生産意欲の減退と担い手育成がままならない。市長が考えている市農業の活路と展望について伺いたい。

【市長】 ASTの取り組みをさら

に促進し、基盤整備、担い手育成、集落営農支援を進めていく。

【質問】 品目横断的経営安定対策において、ナラシ対策としての補てん金はいつ支払われるのか。また、10a当たりの金額はいくらになるのか。年度内に支払いすべき。

【市長】 発動は県単収と指標価格の確定をみてからとなり、時期は来年5月頃と見込まれている。補てん額は例として指標価格が1俵1万4千円で、収量が平成18年度並みの場合10a当たり1万7百円が見込まれている。支払い時期について全国レベルでも要望されている。

【質問】 木工団地の売り上げが計画と比べてかなり低く、経営も厳しいと報告を受けた。遠野型住宅の販売は首都圏を中心としているが、もっと地元で販売ができるシステムが必要である。大手メーカーが進出する中で、地元工務店もがんばっている。できるだけ遠野産材を利用することで川上から川下までの対策としても生きてくると思うが。

【市長】 大手ハウスメーカーの進出によって中小工務店の経営が厳しさを増している。このような状況の中、民間事業の掘り起こしと販売促進が喫緊の課題となっている。来年度以降は「木の家いわてパートナーズグループ」を組織し、県産材を使った本格木造住宅「木の家いわて」の販売を行うこととしている。また、友好都市にも働きかけ、公共工事として売り上げの増加と事業体の経営改善を図っていききたい。

【その他の質問】
交流事業のあり方について



▲遠野産材を使った木の香る家

観光客の誘致について



照井 文雄 議員

【質問】 まちなか再生、遠野遺産、平泉世界遺産など広域的な観光の取り組みは。

【市長】 中心市街地活性化基本計画を策定し国の認定を受けるための準備中である。遠野遺産に認定された53件を新しい観光素材として案内看板等を整備し、市外に向けPRを行う。平泉の世界遺産登録が間近いことから、この

好機を追い風としたい。平泉、花巻、遠野の各観光協会が「いわてクラシック街道」と名づけて、協議会を作り連携を図っている。10月には県南広域関係機関団体等で「北上川流域観光地域づくり協議会」も発足になり、誘客に弾みがつく。

【質問】 遠野市総合計画にない事業の推進は。

【市長】 前期基本計画は「永遠の日本のふるさと遠野」の実現に向けて、主要施策を設定し着実に推進しているところである。基本計画にない事業については、行政評価による事業の見直しを行う中で、優先度や財源などを十分に考慮して、緊急かつ重要な政策課題の解決に効果が期待できる事業を実施計画に搭載し実施している。今後も社会情勢の変化に対応した、スピード感のある行政運営に努めたい。

【質問】 小学生の道德教育の必要性が叫ばれている中で、退職された色々な職種の方々に特別講師をお願いし、道德教育を充実しては。

【教育長】 道德教育は、豊かな人間性、社会性、国際社会に生きる日本人の育成、心情や判断力、実践意欲や態度などの道德性を養うことを目標にしている。その上で60歳以上の方の経験や体験を基にした講話などは、大切な視点であると考え。地域人材を生かした多様な道德教育や情操教育にも力を入れていく。

緊急質問

【質問】 小友町に発生した工事現場からの油もれによる給水事故の対応は。また、保健所遠野支所の廃止の情報があるが。

【市長】 直ちに取水口の閉鎖、保健所の水質検査、上水場の洗浄、給水車の出動、地域住民への広報等の手配を行った。現在は、においのみとなったので状況を見守っているが、今後においがなくなれば直ちに給水再開をしたい。

保健所の廃止問題は、市民の安心・安全確保の面で大事なことであり、権限委譲や住民サービス維持など、県とよく協議をしていきたい。